

子供たちと社会をつなぐ 「キャリア教育コーディネーター」

キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 いくしげ ゆきえ 生重幸恵 代表理事に聞く



Q キャリア教育コーディネーターとは、どのような存在なのでしょう？

「キャリア教育コーディネーターとは、地域社会が持つ教育資源と学校教育を結びつけ、児童・生徒の多様な能力を活動する『場』を提供することを通じ、キャリア教育の支援を行う専門職（プロフェッショナル）であると考えています。ただ単に、地域の大人や外部の教育プログラムを学校に呼び込めばいいというわけではなりません。学校の授業は、単なるイベントとは違うのです。授業には必ずねらいや目標があります。そのことを踏まえ、児童・生徒たちに豊かな学びを通じて、確かな学力を身につけてもらえるようにするための効果的な教育プログラムを提供していく存在でなければなりません。」

Q 現在、学校支援ボランティア推進協議会事業（学校支援地域本部事業）の実施を通じて、「地域コーディネーター」が都内各地に生まれてきていますが、この「地域コーディネーター」と「キャリア教育コーディネーター」との役割の違いはあるのでしょうか？

「学校と地域・社会の橋渡し役を担うという点で、コーディネーターの基本的な役割は一緒です。根本的に違うのは、キャリア教育コーディネーターは、企業や経済団体・NPO等との広範なネットワークを持っていることと、キャリア教育コーディネーターの資格は、認定試験をクリアした方のみに与えられるという点が異なっています。」

Q キャリア教育コーディネーターになるためには資格が必要なのですか？

「はい、このキャリア教育コーディネーターの認定資格は、経済産業省の『キャリア教育コーディネーター育成・評価システム自立化準備委員会』の意見に基づき生まれたものです。経済産業省が発行した『キャリア教育コーディネーター育成研修公式テキスト』（写真参照）の内容を踏まえ作成されたコーディネーター養成研修プログラムを修了した方が、認定試験を受験できるというシステムになっています。また、研修プログラムの中には、学校においてキャリア教育コーディネーターとしての実践研修も盛り込まれていますので、必ずや学校の期待に応えられる人材が養成できると自負しています。」



Q キャリア教育コーディネーターの役割については、よく理解できました。では、キャリア教育コーディネーターが学校教育に関わることによって、教育のスタイルがどのように変わるとお考えですか？

「まず、最初に申し上げておきたいことは、学校の先生方の多くは子供たちの教育のために非常に様々なことを挑戦しているし、頑張っているのだということです。ただ、これまで学校教育がとってきた自己完結的なスタイルでは、子供たちが抱えている課題の全てに対応することは難しいというのが現実なのではないしょう

いま「キャリア教育」に注目が集まっています。平成23年1月31日に出された中央教育審議会答申（「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」）では、キャリア教育を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通じて、キャリア発達を促す教育」と定義しています。キャリア教育は、子供たちの勤労観や社会性を養い、将来の職業や生き方についての自覚に資するよう、経済団体、PTA、NPOなどの協力を得て実施されることが望まれています。

そのような中、本年3月に「キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会」が設立されました。その代表理事に就任されたのは、第8期東京都生涯学習審議会委員の生重幸恵さんです。生重さんは「学校教育コーディネーター」の草分け的存在として、この10年間学校と地域の橋渡しや地域の教育力の向上に取り組んできた方です。「キャリア教育コーディネーター」が今後どのように活動をしていこうと考えているのか、生重さんにお話を伺いました。

か。例えば、体験活動が必要であることは周知の事実ですが、自然体験、社会体験、ボランティア体験、世代間交流の体験などの機会を学校単独で設定することは難しいと思います。その場合は、地域との連携が必要になってきます。キャリア教育の分野にも同じことが言えます。地域の職業人をゲストティーチャーとして招いて講話を聞くことは、学校の努力でできると思います。しかし、グローバル化する社会の中で、キャリア教育を考えると、企業の人が教育支援に関わることも必要ですし、国際貢献活動をしている方をゲストに呼んでお話を聞くことも大切です。また、「ジョブシャドウイング」のように、子供たちが学校を離れたところで、実際の社会の一端に触れるような体験など、従来の学校教育活動の範囲を越えた形で、教育活動を生み出していく必要があるのではないのでしょうか。これから求められるのは『チーム力による教育』だと私たちは考えています。

地域、企業、経済団体、NPO、NGOが持っている教育資源（リソース）を効果的に学校教育につなげていく、そのことで、教育活動のパリエーションは広がるし、子供たちが社会の姿をリアルに感じることができるようになっていくのです。」



Q 企業のプログラムを学校が取り入れていくことについて、教員の中には抵抗感を持つ方もいるかと思いますが、その点については、どのようにお考えですか？

「企業のプログラムを学校が取り入れることへの抵抗感は、まだまだ根深いと思います。ただそのほとんどが、先入観だけで捉えているという傾向があるのではないのでしょうか。実際に私たちがコーディネートした事例では、企業のプログラムは決して営利目的で作られたものではなく、むしろ企業の社会的責任（CSR）という立場から、学校の教育課程に則した専門性の高い内容を提供してくれているという評価を多くの学校関係者からいただいています。しかし、その一方で単に企業の論理を子供たちに押し付けようとしているプログラムが見られるのも確かです。企業のプログラムの内容をまず吟味し、良質のプログラムを学校に提供するの、私たちキャリア教育コーディネーターの役割だと考えます。」



Q 最後にキャリア教育コーディネーターとして、学校の先生たちへのメッセージをお願いします。

「これからの学校に必要なのは、『先生にしかできないこと』と『外部の人々の力を借りた方が効果的なこと』の区別をはっきりさせて、外部の人々の力を借りた方が効果的な場合は、積極的に学校を開いていくことなのではないでしょうか。情報化が進展している社会の下では、ネットワークの視点がますます重要になってきています。学校と社会がリンクすることで、子供たちに多様な学習機会が提供できるようになるのです。キャリア教育コーディネーターは、学校が社会とリンクし、社会の側から提供される多様な教育プログラムを効果的に学校の教育活動に取り入れるためのお手伝いをしていきたいと思っています。」